

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立長洲小学校運営協議会 会長 西村 由美子
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	長洲小学校が目指すコミュニティ・スクールの理解度と参加の意識
	測定方法	令和3年度コミュニティ・スクールをふりかえって意見交換する。
	結果	今年度は、新型コロナウイルス感染の心配があったため、ほとんどの計画が実施できなかったが、見守り安全ボランティアは、例年以上の活動ができた。

3 総合評価

協働側面の評価

他校の取組みを参考とし、今年度は、運営協議会委員を安全・児童活動支援・環境整備の3グループに分けて、学校運営協議会で具体的な活動内容を協議できたことは、本校のコミュニティ・スクールにとっては一歩前進だったと評価できる。

学校運営協議会の取組みについて、事前の把握が十分でなかったため、取材の機会を持ってないことがあり、情報共有を十分にしておくことが必要だと思った。

事業効果の評価

各部会の活動では、児童活動支援については、お願いしていた授業支援が実施できなかったことは残念であったが、運営委員の方々に活動方針や活動内容を理解していただいたので、令和4年度は本格実施できると思われる。また、環境整備については、例年通り中学校での武庫一寸豆とさつまいもの栽培の下準備ができたので、軌道に乗ってきているといえる。安全ボランティアの活動は、例年以上に充実した活動ができていた。

総評

学校運営協議会の中で、学校としてコミュニティ・スクールに期待することを、何度も述べさせていただいた結果、委員の皆さんに一定の理解を得ることができているので、令和4年度は、実際の活動を実施しやすいと思われる。モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立花南小学校運営協議会 会長 山下 勝之
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- 協議内容は「3総合評価」に記載する
- 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	会議で話し合った課題や必要な対策や支援について、取組みを進めることができたか。
	測定方法	話し合った内容が全体で共有され、実施につながった取組み
	結果	会議の前半は学校の様子を知る時間、後半は3つの部会ごとに協議する時間とし、最後に部会の情報を共有するよう時間設定を行った。コロナ禍のため、制約はあったものの、授業支援や地域行事への参加など、昨年度以上に活発に取り組むことができた。委員さんに授業の様子も参観していただく等、子どもの様子を知り、学校への理解が深まった。 授業支援では、1年生のチューリップの球根植え、森林インストラクターによる校内の樹木の学習、ドングリ工作、消防団による防災学習を実施することができた

3 総合評価

協働側面の評価

- ・運営協議会の会議の前には、三役会議（会長・副会長・コーディネーター・校長）を開き、社会教育課の方の同席のもと、会議の運営について確認しながら進めることができた。
- ・学校運営協議会の運営について、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知について、両者で役割分担をしながら実施することができた。

事業効果の評価

- ・学習支援という活動が軌道に乗ってきた。特に、職員の意識の高まりが感じられたのは大きな成果である。今年度は、2学期に家庭科をはじめとした授業支援や地域の方の学校行事への参加、地域の行事へ児童が参加するなどの取組ができた。地域の方の専門性を活かした「環境体験学習」「どんぐり工作」を新たに行うことができた。授業支援に入ってもらうことに対する、職員の抵抗感がなくなってきたことは大きな成果と言える。今後も、更に支援体制を広げていきたい。
- ・活動を通じて学校のことや子どもの様子を知ってもらえた。委員の方には、会議の前に授業の様子も見ていただくことができ、タブレットを使った学習などは、教育の大きな変化を感じてもらえた。昨年度以上に、地域と学校が連携することで、子どもたちの学習の充実や教師の負担軽減につながることに理解が深まり、運営協議会の方向性を互いに確認することができた。

総評

- ・地域の方に、子どもと直に接してもらうことができた。子どもたちにとって、教師以外の大人と触れ合うことは大きな意義があり、教師にとっても専門性の高い地域の方から学ぶことが多かった。学習の補助に入った地域の方からは、子どもたちから「昨日、ありがとう。」と声をかけられたと嬉しそうに感想を述べられる方もあった。今後も色々な分野で地域の方の支援を受けて生活していることを実感できる機会を増やしていきたい。
- ・モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立浜小学校運営協議会 会長 島田 佐知子
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	A	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	会議の開催により、学校への理解が深まり、地域との連携をこれまで以上に進めることができたか。
	測定方法	会議に参加する委員の感想
	結果	学校の状況を委員になぜ支援が必要か、活動の目的を丁寧に説明して依頼すると協力を得られやすい。 学校の課題を学校運営協議会で相談することで、地域の方からの協力が得られ対応することができた。具体的には、通学路の歩道橋工事による安全確保で、委員からの地域への呼びかけにより、登下校時の見守りをお願いすることができ、工事終了後も継続して見守りに協力してもらっている。

3 総合評価

協働側面の評価
会議の開催に向けて、社会教育課と事前に打ち合わせをして資料を準備することで、学校運営協議会としてどのような目的をもって活動を行うか地域の方に伝えることができ、共通理解のもと地域と意見交換を行いながら活動を実施することができた。
事業効果の評価
コロナウイルス感染拡大防止対策のため、会議の開催が予定通り実施できなかったが、1回目の会議で委員と活動方針や内容について共通理解し進めていくことができた。感染拡大防止のため中止となった活動もあったが、コーディネーターを中心に学年ごとに多様な活動を実施することができた。また、歩道橋工事の際に、子どもたちの安心・安全の確保のため地域に協力を呼びかけたところ、新たな協力者の参加があり、工事終了後も子どもたちを見守る活動を続けてくださるなど学校と地域の方のつながりが広がった。
総評
これまでも地域の方の支援により、子どもたちへの学びの充実のために活動を行ってきたが、学校運営協議会で議題としてあげ、話し合っ実施することで、子どもたちの活動がより充実したものになった。活動を実施するだけでなく、子どもたちの学習を充実するための効果的な活動が行えるよう、評価や反省を今後の取組みに活かすことが期待される。 モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立武庫庄小学校運営協議会 会長 野桐 実
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	学校の課題や地域との連携について、実施できたかどうか。 (今年度は、3密を避けることを重要視したため)
	測定方法	保護者アンケートや学校評価、学校評議員会などから総合的に考え評価する。
	結果	新型コロナウイルス感染症の影響により、学校運営協議会委員を集め会議を持つことも困難であったが、子どもたちの命を最優先に考え、会議の時間を工夫し感染症対策を十分に行いながら開催することができた。 地域学校協働活動として、米づくりや武庫一寸豆の栽培・収穫など屋外での体験活動を中心に地域と学校が連絡を密にしなが、共通理解のもと継続して活動することができた。 また、課題となっている、子どもたちの登下校の安全対策に地域の方から意見や提案をもらうことができ共に解決方法を探っていくことができた。

3 総合評価

協働側面の評価
学校と地域が協働しようすると、やはり活動費用が必要で、必要な物を購入することができる委託料があることで活動の充実につながり、やりたかったことが実現できつつあると評価できる。事業内容の企画や実施は学校運営協議会が地域と連携しながら行い、社会教育課が取組みの取材や広報を担うなど、互いに役割を分担しながら進めていくことができた。更に取組みを充実するためには、よりお互いに連絡を密にして進めていく必要がある。
事業効果の評価
学校の教育活動に制限が多かったが、地域の資源を活用しながら子どもたちの体験活動を継続して実施できたことは成果であった。また、子どもたちへの支援だけでなく、通学路の安全確保を地域全体の課題として地域の方と共有することができ、地域と学校のつながりが深まった。 学校と地域がそれぞれ把握している情報を共有し、地域全体で子どもたちを支える取組みを進めていけるよう、引き続き社会教育課として側面支援を行う必要がある。
総評
地域の方々、学校を支えたいと積極的に関わってくださるありがたい存在である。学校での活動が健やかで望ましい姿になることが、地域での生活も安定し活性化するものだと思う。今年度は、活動に制限があり自由にできなかった部分もあったが、次年度以降の活動の下地にはなれたと感じている。今年度の取組みを踏まえ、活動の定着と発展に向け、取組を継続していくことが期待される。 モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立武庫の里小学校運営協議会 会長 濱野 倫子
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	C	C
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	C	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業主旨に基づき、適切な活動を行い、一定の成果が出せたか	A	A
(2) 適切な役割分担の元、各自が持てる強みを発揮し、全体の合力となったか	C	C
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	会議体での提案協議内容が学校活動に活かされているか
	測定方法	提案件数。実施件数。
	結果	4件の具体的提案に対して、4件の合意。3件の学校判断に基づく地域との協働実践。残りの1件は派生する実践が増え、実績が拡大した。
2	評価指標	本事業体の提案による、各取り組みの結果。
	測定方法	成果物や各取り組みの内容ごとに設定する。
	結果	安心安全街づくりのポスター作製。危険マップを全組織全協働で作成。(40周年事業とコラボ。マップ画入りファイルケースを作成。全児童地域関係各位へ配布。安心安全街づくり意識の醸成。) イエロープレートの設置。公園から始めることを確定。

3 総合評価

協働側面の評価
<p>モデル事業の趣旨について、事業を始める前によく説明を行い、共通認識して会議や活動を行うことで、より充実した取組みにできたのではないかと反省する。学校運営協議会が主体的に進める部分と社会教育課と話し合い連携しながら行う部分を明確にしておくべきであった。</p>
事業効果の評価
<p>コロナ災禍のため、綿密な会議を実行することが出来なかった。このため、思考判断に時間を要することもあり、会議数を増やす又は、別の手段を講ずる騰が考えられたと思う。</p> <p>また、活動が十分に行うことが難しく、コミュニケーション手段に関しても、新たな取組みを必要としている。</p> <p>校長判断の案件について、学校運営協議会の協議における地域の方の意見を参考として判断を行うことが、地域とともにある学校をめざしていく上で有効な手法であるが、地域の方の意見が学校運営の当事者としての意見となるよう共通認識をもちながら会議を持つ必要がある。</p>
総評
<p>コロナ災禍での活動としては、課題面に対して、その成果が一定以上発揮できていたものと考えられる。一方、その成果分だけ、少数の人材に事務分担が集中し、負担がかかっていた。地域参加型の学校運営として、いくつもの試みを実践成功させたという点で、総合的に見て、高く評価できる令和3年度の学校運営協議会のスタートだったと総括する。</p> <p>モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。</p>

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立尼崎北小学校学校運営協議会 代表 善見 壽男
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	学校・地域・家庭との連携を深め広げることができたか
	測定方法	学校アンケートによる
	結果	学校アンケートにおいて、家庭との連携についての評価は例年並みであった。
2	評価指標	コミュニティ・スクール設置について保護者や地域に周知することができたか
	測定方法	学校運営協議会で各団体の代表から報告のあった、周知状況
	結果	保護者や地域へのコミュニティ・スクールの周知は、まだまだ広がっていない。家庭や地域に知ってもらうための方策を話し合い、今年度末には、地域の方にコミュニティ・スクールになったことを知ってもらうため、横断幕を作成し学校フェンスに掲示する等、周知に努めた。

3 総合評価

協働側面の評価
事業実施前から学校運営協議会の役割について受委託者双方で確認しながら、進めていくことができた。これまで地域学校協働活動を実施してきた地域団体等との関係や地域の独自性を大切にしながら、事業を進めていくことができたが、学校運営協議会の主体的な取り組みをベースに、社会教育課とも連携し事業の充実に努めた。
事業効果の評価
コミュニティ・スクール設置の周知について、学校運営協議会で委員が意見やアイデアを出し合うことができたことは、当事者として学校運営協議会に関割ってもらえて良かった。今年度、通信発行や横断幕設置など積極的に情報発信を行っており、保護者や地域に理解が広がり、今後、より多くの方から協力が得られると考える。また、学校職員への理解をさらに深めるため、社会教育課と連携しながら教員向けの制度周知を図る必要がある。
総評
地域連携協働本部の活動団体の代表が委員となり、家庭・地域・学校が連携して学校運営に取り組むコミュニティ・スクールについて、考えを深め共通理解することができた。また、地域連携協働本部の活動団体と連携して、学校の教育目標に向かい取り組みを進めようと意思疎通を図れたことは大きな成果である。今年度は、コロナ禍もあり、実際の活動は多く進めることは難しかったが、家庭・地域・学校の連携の土台作りが強化されたと感じている。 モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立大庄小学校運営協議会 会長 高野 禎俊
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	C	C
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	C	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	学校運営協議会に参加して、学校について理解や愛着が深まったか。
	測定方法	聞き取りによる。
	結果	昨年度は組織を立ち上げるにとどまったが、今年度は学校運営協議会委員に授業参観の機会をもつなど、学校について理解が深まった。

3 総合評価

協働側面の評価
<ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会の連絡手段である SNS のメンバーに社会教育課の職員が入ったことで、委員同士の連絡調整や実施事業の情報を常に把握することができた。・学校運営協議会の地域学校協働活動の取組み状況や地域との連携について、もっとお互いの連絡を密にして進めていくことができれば良かった。
事業効果の評価
<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、3学期に行う予定だった会議が持てないなど、思うような活動ができなかった。・来年度の創立150周年に向けて、学校運営協議会委員と話し合うなかで、共通の目的をもつことができた。・授業参観を行うことができ、学校について理解を深めることができた。・会議の日程調整や委員との連絡で SNS を活用するなど、連絡調整の負担軽減の事例としてノウハウが蓄積できた。
総評
<ul style="list-style-type: none">・メンバーの大半が仕事を持っていることから、平日の会議を持つことができない。また授業参観も参加できる人数が限られるのが課題である。今後は、オープンスクールや学校行事を参観してもらうことで、理解を深めていってもらえればと考える。・今後、子どもたちの授業の充実のため、地域の方が学校内で活動を行う機会をもち、地域の方々の学校への理解が深まるような取組みを進めていくことも必要だと思う。・モデル校としての事業実施を通して、他校の参考となるノウハウを蓄積することができたため、他校の実施においても活かしていきたい。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立下坂部小学校運営協議会 会長 石田 歩美
事業名	令和3年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	コミュニティ・スクールに係る運営協議会を年4回以上実施し、運営協議会と学校、運営協議会委員相互の共通理解を図ることができたか。
	測定方法	運営協議会の実施回数及び出席人数 出席者の感想
	結果	運営協議会を3回開催し（うち1回は交流会）、出席者はのべ58名だった。学校運営協議会委員と教職員の顔合わせを行うことができ、短い時間ではあるが、互いのことを知る機会となった。また、日頃から子どもたちのため活動くださっている方々同士で意見交流することでお互いの理解推進を図ることができた。

3 総合評価

協働側面の評価
<ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会には社会教育課も必ず出席し、協議の内容や活動の情報を共有することができたので、常に状況を把握することができた。・昨年度からモデル校として事業を行っており、学校運営協議会の進め方やこれまで実施してきた活動が定着していることもあり、お任せの状況になっていた部分もあったが、更に効果的に取り組めるよう話し合い事業を進める必要がある。
事業効果の評価
<ul style="list-style-type: none">・コロナの感染状況もあり、前半なかなか会議をすることができなかったが、10月以降は計画的に開催し、学校・児童の様子を知る、それぞれの活動内容の交流を図る、運営協議会としての活動について意見交換をするといったことができた。・総合的な学習への地域人材の活用、学校の美化活動の実施など、コミュニティ・スクールならではの活動ができた。
総評
<ul style="list-style-type: none">・コミュニティ・スクールを設置して2年がたち、運営協議会のメンバー、学校の教職員の中で、コミュニティ・スクールとしての活動が根付きつつある。・運営協議会に、地域学校協働活動の観点で幅広い分野から委員に入っていていただき、様々な活動をする際に非常に動いていただきやすい。・今後も、地域の宝、誇りである「近松」についての学習に子どもたちが取り組む「近松学習に関わる学び」という下坂部小学校ならではの取組を、学校と地域が協働した取組の核に据えてコミュニティ・スクールの取組を進めていきたい。・モデル校としての事業実施を通して、地域人材を活用した授業による効果や教員への周知方法など参考となる事例が蓄積できたため、他校の実施においても活かしていきたい。